

臨床福祉専門学校
言語聴覚療法学科 平成30年度 第一回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成31年2月5日（火）13：00～14：30

場所：臨床福祉専門学校 203教室

出席委員及び所属

田村 満子（NPO法人 こども発達療育研究所理事長）

園田 尚美（株式会社 言語生活サポートセンター 代表取締役）

浜田 智哉（言語聴覚療法学科 学科長）

記録：樋口 豊朗（事務局 係長）

1. 学科長挨拶（報告：学内組織について）

平成30年度より、組織改編があり、浜田 智哉が学科長となった。
改めて、委員に対しての御挨拶と現在の学生状況等の報告を行った。

2. 現在の学園の将来的構想について

前回の本会議より、期間が空いており、その間の敬心学園の将来的構想計画について報告を行った。

具体的には、専門職大学の認可取り下げ・再申請に関する件、及び、それに関連性がある事として、言語聴覚療法学科については、正式に募集停止の申請をし、来年度の入学生が最後となる趣旨についての説明。

3. 今年度の教育プログラムについて

過去の教育課程編成委員会の場合において、委員より要望があった入学後の早期見学の継続的な運用、さらに本校では、国家試験に受かるという以前に、現場に出て役に立つ知識を養成する事を重視した教育課程の運用を行っている事の報告をした。

（田村）：早期見学では学生も大半は実習の目的を理解しており、入学後すぐに現場を見学する事で将来像が明確になり、学生生活上モチベーションが高まる事を期待している。

（園田）：患者を第一とした気配りがもう少し欲しい、訓練に参加する学生にもモチベーションに差がある。

（浜田）：患者目線を第一とした、マナーを重視する事を今後は意識して教育を行っていく。知識だけあれば良い言語聴覚士になれると錯覚している学生もいる。医療人としてのマナーを身に付けさせる事も教育の一環であり、真摯に受けとめる。

（田村）少人数の実習だと問題ないが、大多数の授業の際には集中力も欠け話が聞けない学生も多い。

(園田) 授業に関連する事であるが、マニュアル通りにしか動けない。
1対1だと対応は可能であるが、1対多数だとマニュアル通りでは対応できない。それは患者に接する際も同様。

(浜田) 言語聴覚療法学科では、過去に実習報告等取り入れてきたが、アクティブラーニングをより積極的に導入し自主的な意見を身に付けさせていく事を重視する。

【まとめ】

組織改編があった事から、今までの振り返りを中心とした会議となったが、学生の質について、委員からの意見も頂き、今後の学科運営の参考とする。次回の会議では、現在の敬心学園の背景を基準として、今後の委員会の有り方
中心とした議題となる。

以上